

平成27年度 学校自己評価システムシート (県立 川越工業高等学校 定時制の課程)

目指す学校像	校訓「誠実・勤勉・創意」を基本とする教育活動を通して、社会の変化に主体的に対応する能力の育成に向け、その基礎・基本を養う。
--------	---

重点目標	1 生徒一人ひとりの能力を把握し、基礎学力の向上をはかる。(最重点目標) 2 地域社会に根ざした学校づくりを推進する。 3 生徒一人ひとりを大切に、親身あふれる指導を推進する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	11名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価			
年 度 目 標					年 度 評 価 (1 月 7 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	○漢字検定や電気工事士等の各種検定合格や資格取得を目指す指導により、学習意欲の向上が図られている。学習環境の整備をして、学習意欲が基礎学力の向上へとつながるような方策を講じていくことが必要である。	○生徒の実態把握と状況の共有化、指導方法の工夫・改善 ○基礎学力の定着	①生徒に対する学習に関するアンケートの内容を改善し、実施する。集計し、指導方法の改善に役立てる。 ②学習サポーター等、外部講師の活用内容を工夫し、学習意欲を高める。 ③『総合的な学習の時間』等を活用した基礎学力トレーニングを実施する。 ④教科間を越えた授業に対する連携協力を行う。	①学習に対する意欲、理解度の向上はみられたか。 ②学習サポーター等と協力し、授業の理解度が改善されたか。 ③文章理解度や基本的な計算力など基礎学力の向上が図られ、他教科の学力向上に寄与することができたか。 ④教員間で協力し、相乗効果のある授業が実施できたか。	①生徒アンケートを実施した結果(回収率75.7%)、67.9%の生徒が、「授業が解りやすい」と回答した。 ②学習サポーターの活用により、授業中でも個別指導をすることができ、生徒の理解度を向上することができた。 ③総合的な学習の時間での学力向上で身に付けた力を活用し、他教科での理解度を高めることができた。 ④教員間での授業参観や研究授業を実施し、授業改善に努めることができた。	B B	○教員間や学習サポーターとさらなる連携を図り、生徒がより分かったと思える授業の工夫をしていく必要がある。 ○生徒の状況や様子等の情報を教員間で共有しながら、より良い学習環境の中で勉強に取り組むことができるようにしていく必要がある。 ○基礎学力トレーニングが必須となるため、担任と教科の連携をしながらその実施方法や活用の仕方などを改善していく必要がある。	○継続しているアンケートは年々の変化がわかりやすく、課題が浮き彫りになっている。解決が困難な課題も多いが、今後も立ち向かうことが必要である。 ○学習サポーター等基礎学力向上への取組が着実に実を結びつつあると思った。さらに充実させることを望みたい。 ○困難な状況でも資格取得など意欲をもって取り組んでいることがよくわかった。 ○協調学習等今後もさらなる授業活動の充実に取り組んでもらいたい。
2	○学校評価懇話会など校外の方々との意見交換の場を充実させている。PTA総会、保護者面談以外にも保護者が参加できるように学校行事に工夫をしていくことが必要である。	○開かれた学校づくり ○情報発信の時期・方法などの工夫	①学校評価懇話会での活発な意見交換や助言を活用する。 ②外部の専門機関を積極的に活用する。 ③各種行事の内容を見直し、行事への保護者の参加を促す。 ④定時制だよりの発行やさらなる充実を図ったホームページの作成及び定期更新を行う。	①学校評価懇話会での意見交換を通して、本校の取組をアピールすることができたか。 ②外部の専門機関との連携を強化することができたか。 ③保護者の行事への参加者が増えたか。 ④定時制だよりのホームページを活用することで本校の取組が、多くの方々にアピールすることができたか。	②スクールソーシャルワーカー、就職支援アドバイザー等の外部講師を活用し、専門機関との連携を強固なものとすることができた。 ③給食試食会や授業公開などを実施し、保護者の学校への参加を促した。特に体育祭には大勢の保護者が来校した。 ④ホームページの更新を定期的に行い、外部への情報発信に努めた。	A B	○専門機関や外部講師を継続して活用し、生徒の発達支援をより良くしていく必要がある。 ○保護者の学校教育への関心や興味を高めるため、情報発信に努めていく必要がある。 ○本校定時制を希望する生徒や中学校、地域等に本校の教育内容を理解していただくためにホームページを有効的に活用していく必要がある。	○SSWを通して外部機関との連携が活発に行われていることがよくわかった。今後も有効に活用してもらいたい。 ○保護者や地域との連携が一層深まるような取組をお願いしたい。
3	○多様な生徒一人ひとりに応じた指導方法の工夫・改善に務めている。社会に出る準備として、規律ある学校生活への意欲的な参加をより一層喚起することが必要である。	○基本的な生活習慣の確立 ○生徒の自己実現に向けた指導	①登下校時や休み時間の生徒への声かけ運動を継続して全職員で実施する。 ②各年次団や生徒指導部を中心として、情報を共有化し、生徒との日常的な相談体制を確立する。 ③各種進路説明会への積極的参加・面接指導や履歴書指導等、早めの進路指導を行う。	①前年度と比較して、出席率が向上したか。 ②情報を交換しながら生徒の指導を実施することができたか。 ③多様な生徒に応じた進路指導を実施することができたか。進路先は決定したか。	①全職員による継続的な声かけ運動を実施したことで、問題行動の減少や高い出席率を維持することができた。 ②生徒の情報を共有し、教員間で統一した指導をすることができた。 ③専門機関等を活用して、進路講話、就職相談や面接指導を実施した。また、合同企業説明会へ参加し、進路実現の意識を高めることができ、就職希望者の95%が内定をいただくことができた。	A A	○今年度出席率は向上したが、遅刻者が増えたように感じる。落ち着いた学習環境を維持していくために、まずは遅刻者を減らせるように粘り強く指導していく必要がある。また、保護者と学校の密接な関係づくりをしていかなければならない。 ○定時制ならではの進路指導の方法を確立し、成果を維持できる体制づくりをしていく必要がある。	○定時制においては幅広い学びの場を提供していただき感謝している。今後も様々な生徒へのきめ細かな指導をお願いしたい。 ○インターンシップ等生徒の希望進路の実現につながる取組はさらに充実させてほしい。 ○出席率の向上など学校の取組が実を結びつつあることがわかった。さらに継続させて中退者防止に取り組んでほしい。

